

詩を書く(う)保護者・初等部児童・中等部生徒の皆さんへ

② ニュージャーシー補習授業校

(十二月二十二日)

続けて詩を書く視点をお知らせします。詩は、「省略」が大切です。結論を書かずに、読む人の想像に任せるのです。詩は「省略の文学」といつても過言ではないでしょう。読む人に、余韻を持たせることです。

【視点3】結論を省略しましょう。読む人に想像してもらいましょう。(俳句・短歌も同じです。)

つながり

ハノイ日本人学校 中一 小西 陽

小さい頃から空を見るのが好きだった

小さなぼくがいくら走っても

そこにあるのはいつもの空だ

なぜか

ひびくやさしい感じのする

ママの

空だった

ハノイにおりたつた時に

ふと見上げた空は

つきぬけるような

青い 青い

ひびくやさしい感じのする

あの空だった

どこにしようとも

空はつながっているのだ

【視点4】会話体」を活用しましょう。生き生きとした表現ができます。(作文・短歌も同じです。)

とんぼ

ミネアポリス補習校 小一 福田麗澄

ママが

「してっ。」「つていった。

いもうとに

「しずかに。」「つていった。

わたしも

しずかにした

しんぞうのおとが

きこえるくらい

しずかにした。

そつととんぼのはねを

つかまえた。

うれしくて

「やったあ。」

といたかったけど
がまんした。

ついにわたしは

とんぼをつかまえた。

ゆびのさきに

とんぼをのせて

「ばいばい。」

つていって

にがしてあげた。

(続く)